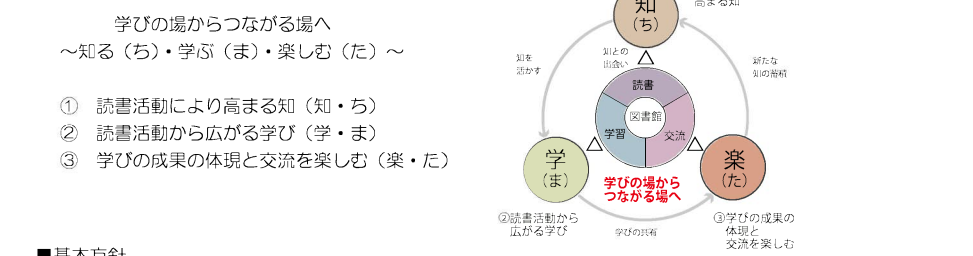


亀山駅周辺地区・2ブロック市街地再開発事業基本設計等業務における亀山市立図書館の考え方

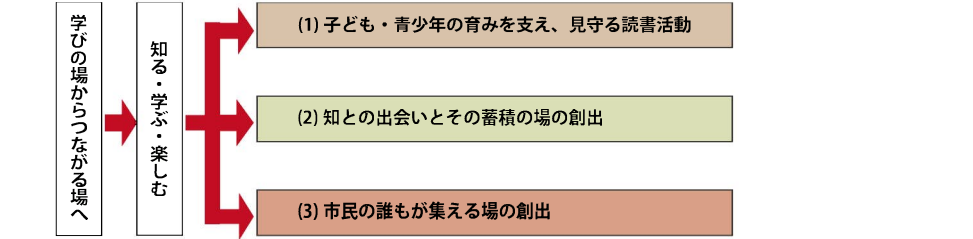
図書館づくりの考え方 基本計画について

本計画の上位計画としては、平成30年5月に亀山市教育委員会により策定された「亀山市立図書館整備基本計画」があり、新図書館の基本的な考え方や施設整備の方針が定められています。一部を抜粋し、その方針を確認します。

■基本理念



■基本方針



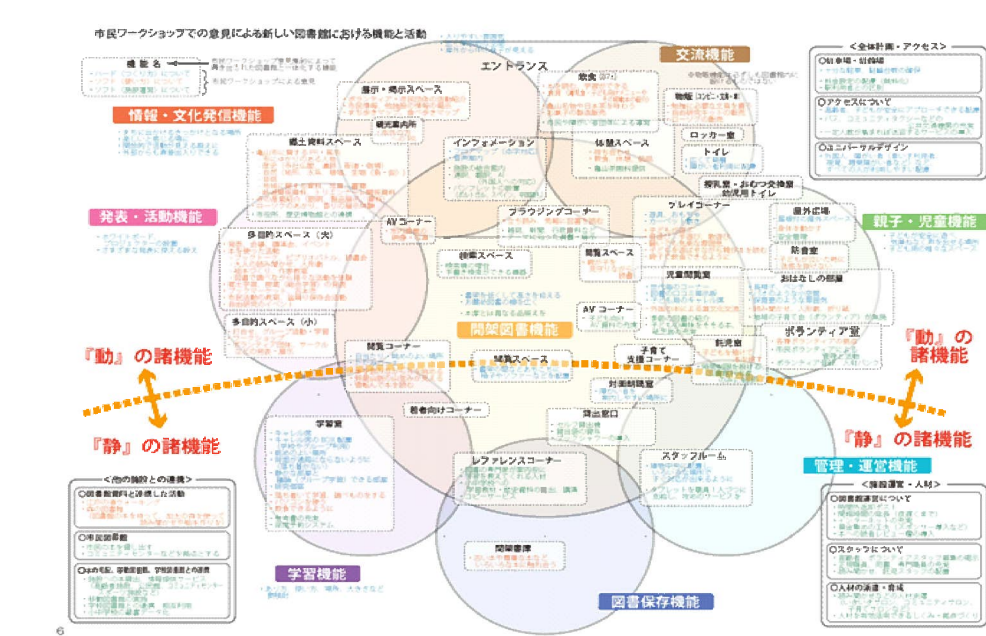
■図書館施設整備の基本的な方向性

本来の図書館としての基本的性能を十分確保した上で、
 本を通じたさまざまな学び、出会い、つながりを創造する「多機能型図書館」をめざします。

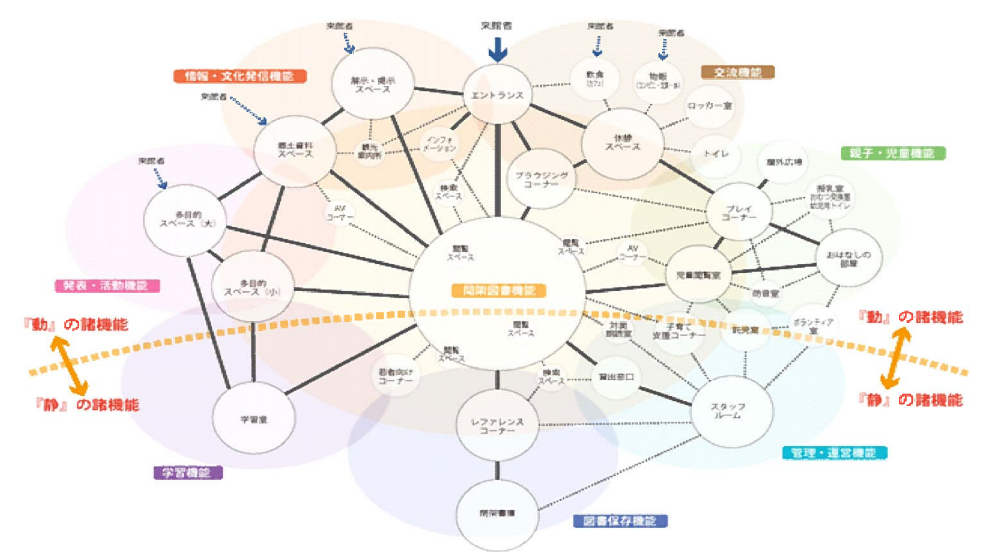
■機能整理の考え方

基本理念	コンセプト	基本方針	機能名	スペース名
学びの場からつながる場へ	知る	知との出会いとその蓄積の場の創出	1. 開架閲覧機能	開架エリア 閲覧スペース・閲覧コーナー プラウジングコーナー AVコーナー
	学ぶ	子ども・青少年の育みを支え、見守る読書活動	2. 親子・児童に向けた機能	プレイコーナー・屋外広場 おはなしの部屋 児童図書・児童閲覧室 幼児用トイレ・授乳室・おむつ交換室
	知る	知との出会いとその蓄積の場の創出	3. 地域情報・文化発信機能	展示・展示スペース 郷土資料スペース
	楽しむ	市民の誰もが集える場の創出	4. 展示・発表活動機能	多目的スペース【大】【小】
	学ぶ	知との出会いとその蓄積の場の創出	5. 学習機能	学習室
	楽しむ	市民の誰もが集える場の創出	6. 市民交流機能	休憩スペース 飲食(カフェ)
	知る	知との出会いとその蓄積の場の創出	7. 図書保存機能	閉架書庫
	—	—	8. 管理運営機能	サービスカウンター スタッフルーム

■ワークショップによる機能と活動の整理図



■機能とスペースの関係性



本を通じて人や活動が集まり、学び、つながり、発信する
さまざまなものが集い、さまざまな場所へとつながる結節点となる、亀山の新たな拠点をつくります。

学びの場からつながる場へ 本からはじまる「かめやま ブックステーション」

○本を通じたさまざまな活動や使い方を実現する「多機能型図書館」をつくります

開架閲覧機能を中心とし、さまざまな付帯機能を施設全体に散りばめることで、本を通じた新たな学びや活動が生まれ、施設全体を多目的に活用できる空間をつくります。

○子どもを見守り・育て、多世代が触れ合える交流の場をつくります

児童書架・ティーンズコーナーを施設の中心に配置し、周囲を一般開架エリアが取り囲むゾーニング構成とすることで、子どもたちを見守り、育む関係を生み出します。また、メイン階段を各エリアを縫うように配置し、移動する中でさまざまな本や機能、人に知らず知らずのうちに触れ合えるようにします。

○人々が心地よく過ごすことのできる新たな居場所をつくります

フロアごとに設える異なるさまざまな閲覧スペースを設け、人々が思い思いに心地よく過ごすことができる、「サードプレイス」となる居場所をつくります。屋内外のつながりや周辺環境との調和などの立地特性を生かし、内外装・家具・植栽などの建築計画での配慮を加えることで、これからの時代の滞在型図書館にふさわしい居心地のよい環境づくりを目指します。

○駅前立地を活かした亀山のおもてなし空間をつくります

亀山駅前に面する亀山の顔となる施設であり、市民だけでなく市の来訪者を迎え入れる、亀山の玄関口としての役割を担います。駅前立地と「多機能型図書館」が合わさることで、賑わいを生むとともに、本・人・情報などが集まり、つながり、発信する、亀山市の顔となるおもてなし空間をつくります。1階のエントランス廻りには地域の歴史・情報や市民活動の展示・掲示コーナーを設けるとともに、総合案内カウンターでは観光案内も合わせて行うことで、亀山の情報が一目で分かり、伝わる空間とします。

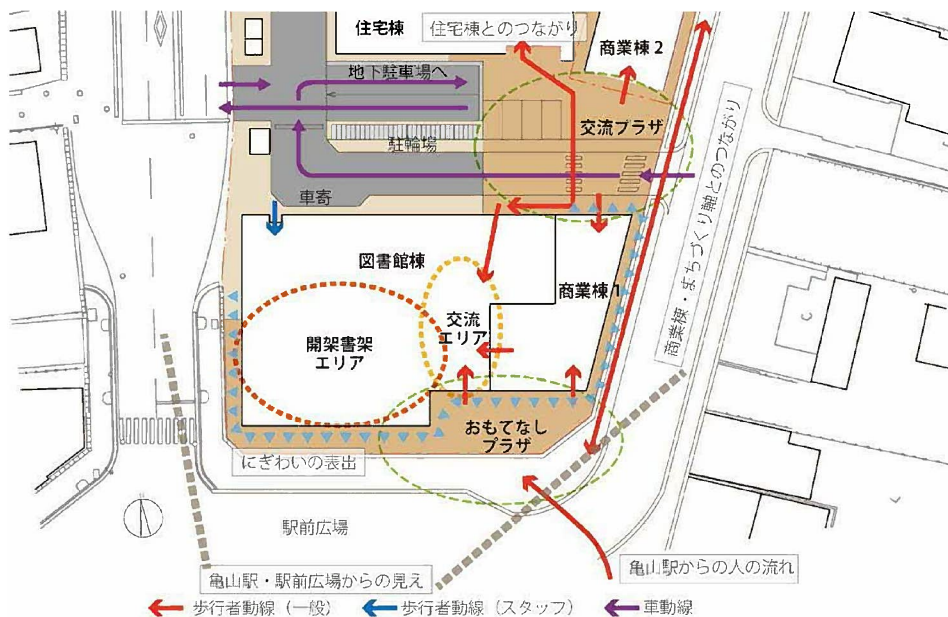
■施設規模の考え方

本図書館は市街地再開発事業地内に建設される再開発ビル内に計画されるため、再開発計画上から建物の大まかな配置や階構成が決まっており、延床面積 3,000 ㎡（地階の機械室などを含む）の 3 階建てが基本ボリュームとなります。ただし、図書館全体の空間のつながりや内外観デザインとの兼ね合いから、本計画では一部 4 階建の構成とします。

また、図書館地下には図書館利用者専用となる地下駐車場（50 台程度）を計画し、利便性に配慮します。

■配置計画の考え方

JR 亀山駅、駅前広場から再開発エリアへとつながる南北のつながりを意識しつつ、図書館へと人を誘う配置・アプローチ計画とします。また、歩行者動線と自動車動線を分離し、安全に配慮します。



■書架・書庫の必要面積

図書館の書架・書庫部分の必要面積の目安について整理します。下記面積を目安に計画を進めます。

書架・書庫の分類	本計画の 想定蔵書数	単位当りの冊数の目安 (実績値)	必要面積の目安	基本設計図での 床面積
開架スペース (開架書架、閲覧席等を含む)	85,000 ~90,000 冊	100~110 冊/㎡	約 775 ~900 ㎡	約 900 ㎡
児童書架 (おはなしの部屋等を含む)	25,000 ~30,000 冊	60~70 冊/㎡	約 285~335 ㎡	約 335 ㎡
公開書庫	30,000 冊	300 冊/㎡	約 100 ㎡	約 120 ㎡
閉架書庫	60,000 冊	450 冊/㎡ (集密書架) 800 冊/㎡ (自動化書庫)	約 135 ㎡ 約 75 ㎡	約 165 ㎡ -
計	200,000 ~210,000 冊		約 1,295 ~1,470 ㎡	約 1,520 ㎡

利便性の高い読書空間と多機能性を担保するため、当面は 20~21 万冊の蔵書数を確保し、将来的には 24 万冊の蔵書数をめざします。

■各階構成の考え方

上記及び基本計画の方針をふまえつつ、各階構成を決めるための 2 つの方針を打ち出すとともに、図書館整備における 3 つの基本方針に沿って、各階の機能コンセプトを以下のように定めます。

<各階構成を決めるための方針>

- (1) 上階に向かうにつれて「動⇒静」の空間となる段階的な構成とする
- (2) 一般書架エリアを中心に附帯機能をつなげる

<各階の機能コンセプト>

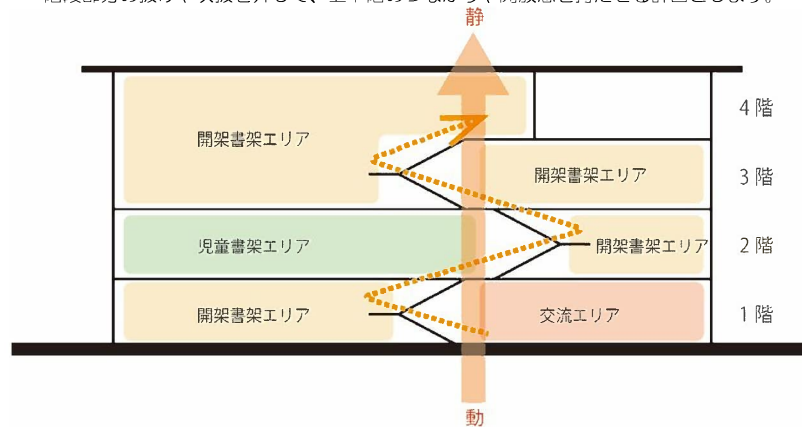
	各階の機能コンセプト	図書館整備における 3 つの基本方針
1 階	「本を通じた多目的交流の場」	市民の誰もが集える場の創出
2 階	「子ども＋子育て＋多世代交流の場」	子ども・青少年の育みを支え、見守る読書活動
3 階（一部 4 階）	「落ち着いた大人の学びの場」	知の出会いとその蓄積の場の創出

■ゾーニングの考え方

さまざまな附属機能が複合した施設全体を図書館として活用できるように、各階が有機的につながる構成とするとともに、立体構成を活かしたゾーニング計画とします。

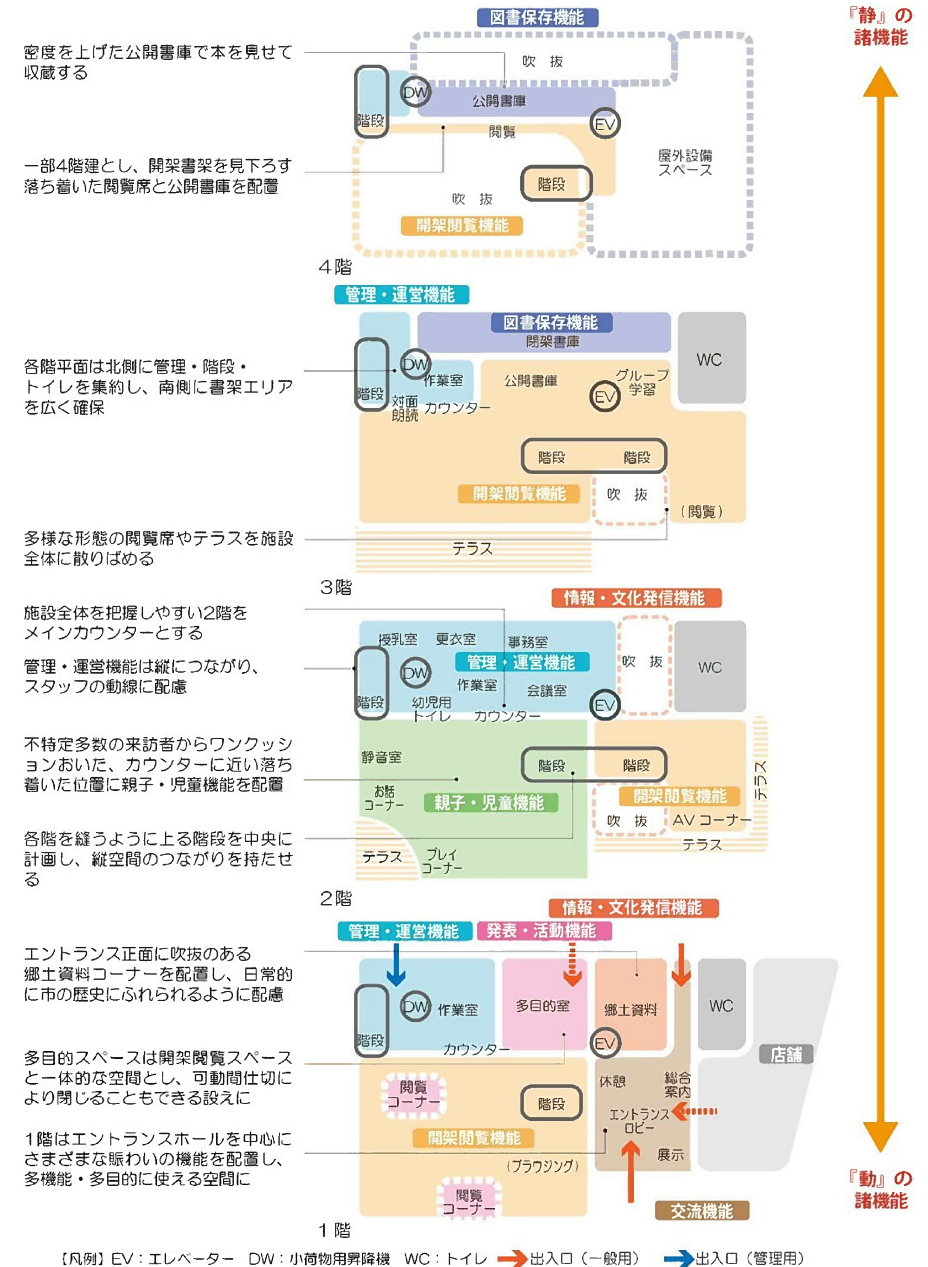
○断面計画の特徴

- ・メイン階段をつづら折り状にすらしつなげ、各階の機能に触れながら上下移動ができるようにします。
- ・階段部分の抜けや吹抜を介して、上下階のつながりや開放感を持たせる計画とします。



○平面計画の特徴

- ・大きく北半分を管理運営エリア、南半分を開架書架エリアとし、明快な構成とします。
- ・開架書架エリアはロングスパンとし、外壁面はガラス張りを主とすることで空間に広がりを持たせます。
- ・管理運営諸室は北西側に集約し、階段や小荷物用昇降機といった縦動線を近接させて、スタッフの移動や利便性に配慮します。



■平面計画

○1階「本を通じた多世代・多目的交流の場」

メインエントランスとなる1階には「多機能型図書館」を具現化する、開架閲覧機能と情報・文化発信、発表・活動、交流機能が一体となった、多世代・多目的交流の場となる空間を整備します。フロア全体をつなぐ開架閲覧機能の周囲に各機能を配置し、本と活動がつながり、図書館を核とした生涯学習としての学びと交流の実現を目指す空間とします。

1階の開架書架は、ブラウジングや地域資料、各種活動と連携した書籍など、気軽に読め、地域情報や活動などに関心を持てる本図書館独自の特徴的な配架計画とし、そこでの興味や関心を上階の書籍や機能へつなげる役割も担うものとします。また、1階はある程度の話し声や賑やかさを許容する空間とします。

○2階「子ども+子育て+ティーンズの間」

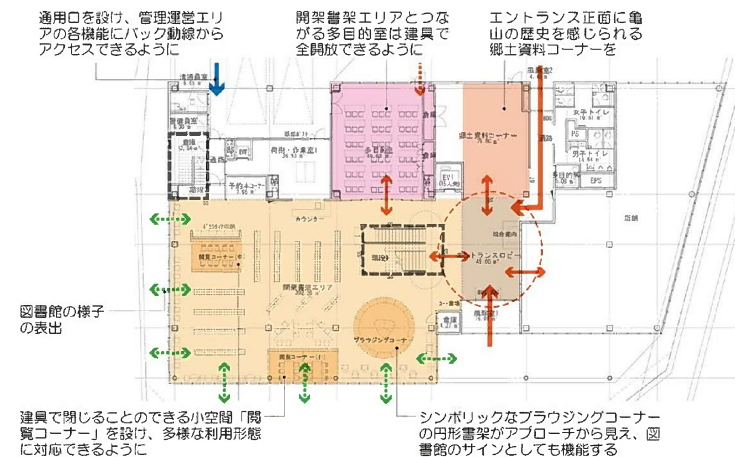
1階の多世代・多目的交流の場からワンクッションおき、駅前ロータリーの喧騒からも落ち着いた環境となる2階には、親子・児童機能を中心としたこども、子育て、若者世代向けの空間とします。2階に上記機能を設ける理由としては、以下のものが挙げられます。

- ・ 図書館整備における3つの基本方針のうちの1つ「子ども・青少年の育みを支え、見守る読書活動」をふまえ、図書館の中心にその機能を配置することで、上下階のさまざまな本や機能、活動などに身近に触れ、大人へと成長できるきっかけとなる
- ・ 人の出入りが多い1階を避けることで、不特定多数からの接触に対して緩やかなバッファとなり、子どもの安全・安心につながる
- ・ 交通量の多い駅前ロータリーから1層上がった階とすることで、落ち着いた良好な読書環境を構築できるとともに、子どもが児童書架エリアから離れた場合でも、すぐに交通量の多い1階外部へ到達することがないため、安全性が高い
- ・ 施設全体の中心となる2階にある事務室から近く、子育てサポートや管理運営がしやすい

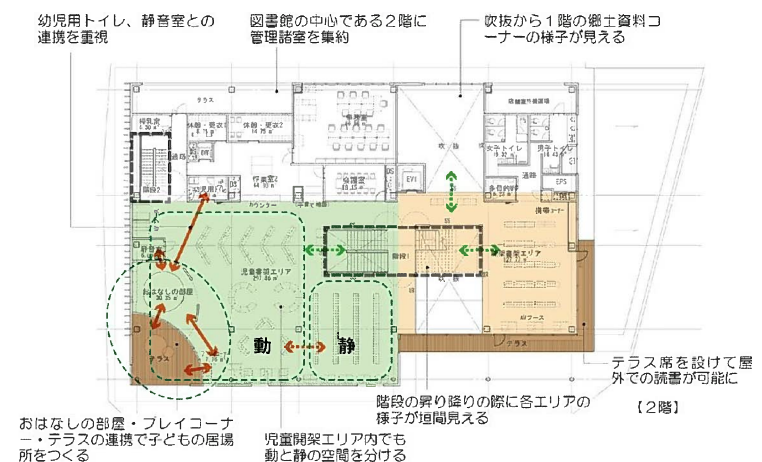
児童書架エリアは書架レイアウトや形状に変化を持たせ、楽しい雰囲気演出するとともに、さまざまなコーナーやテラスなどを組み合わせることで、子どもの知的探求心を引き出す空間構成とします。

隣接して子育て世代に関する図書や資料・情報を集約したコーナーを配置するとともに、子育て相談や託児サービスなどが気軽に受けられるようにします。

また、ティーンズコーナーには青少年に関する図書を配置するとともにその可能性を伸ばす居場所となりうる空間づくりを目指します。



【1階】



【2階】

○3階（一部4階） 「落ち着いた大人の学びの場」

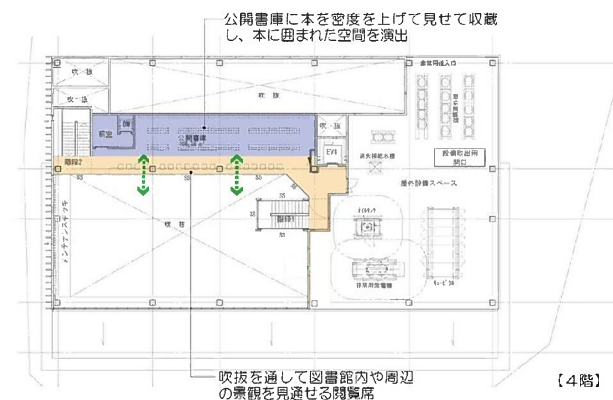
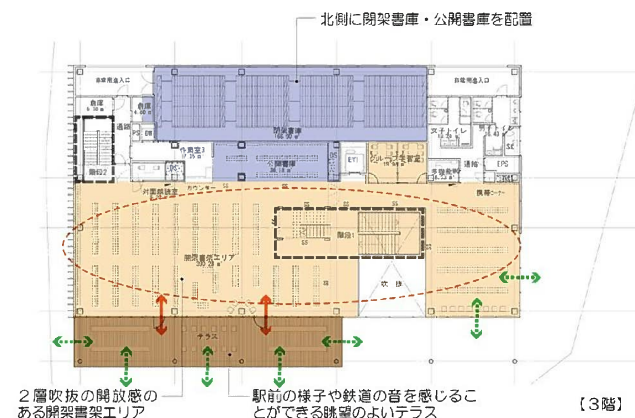
3階は開架閲覧機能と学習機能を主とした、落ち着いた静かに本と向き合い、学ぶことのできる空間とします。一部4階を利用して2層吹き抜けの開放的かつ一体感のある空間構成とし、極力多くの本が一覧できる書架配列とすることで、本に包まれた知の出会いと蓄積の場を創出します。

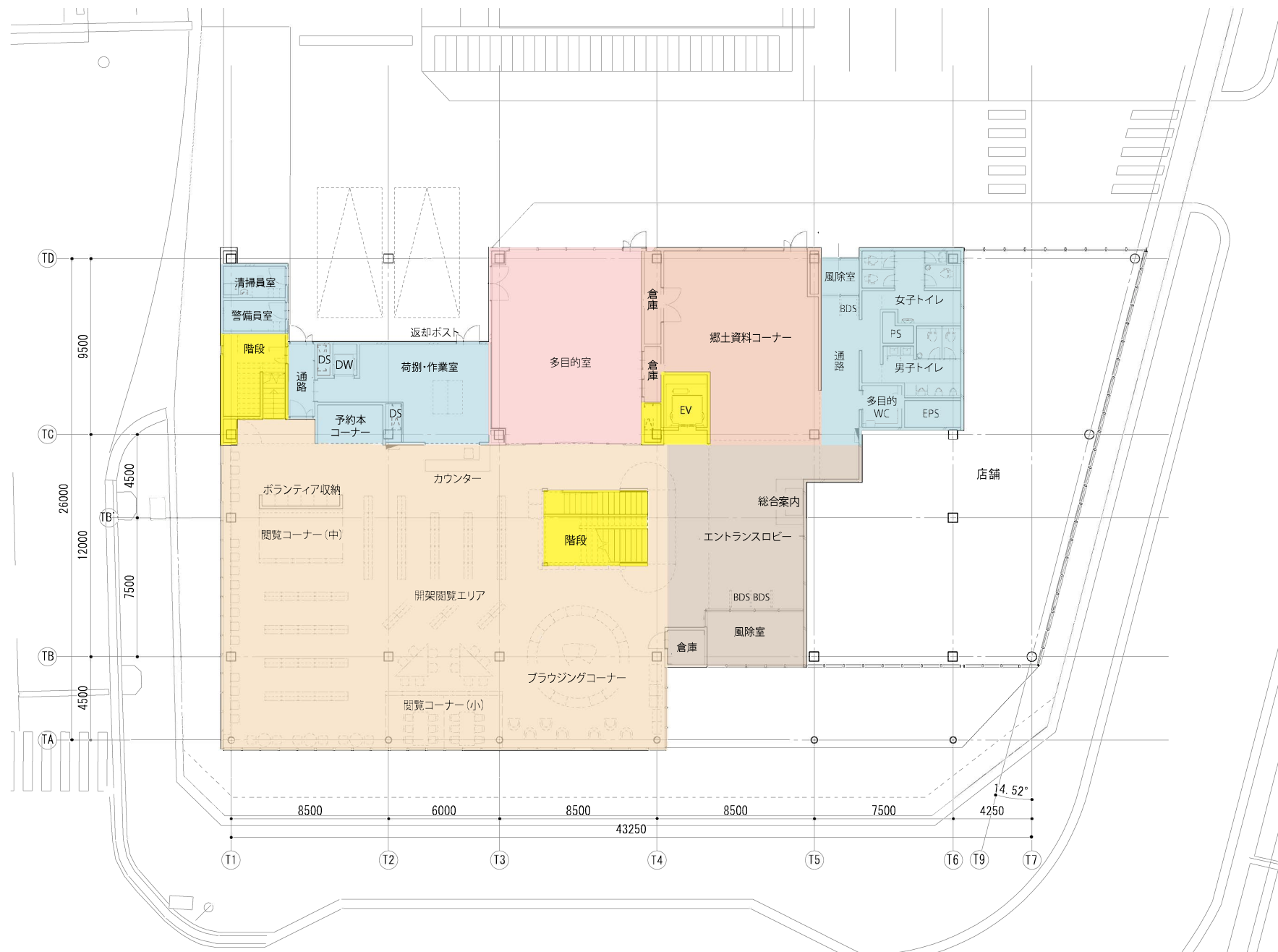
○管理運営機能の考え方

各階とも北西側に管理運営機能を集約配置し、階段と小荷物用昇降機を計画することで、縦動線をつなげて移動しやすくするとともに、明快なゾーニングとします。

3層構成の図書館の中心となる2階に事務室とメインカウンターを配置することで、図書館全体の様子を把握しやすくするとともに、各階への移動負担を低減します。尚、多数の来訪者が訪れる1階には、図書館サービスを担うカウンターとは別に、施設全体の案内を担う「総合案内」を設けることで、多機能型図書館におけるサービスの振り分けを行い、本来の図書館サービス業務に支障がないように配慮します。

また、飲食スペースについては、各階で飲食可能な運用を想定し、詳細は実施設計段階で検討を行います。



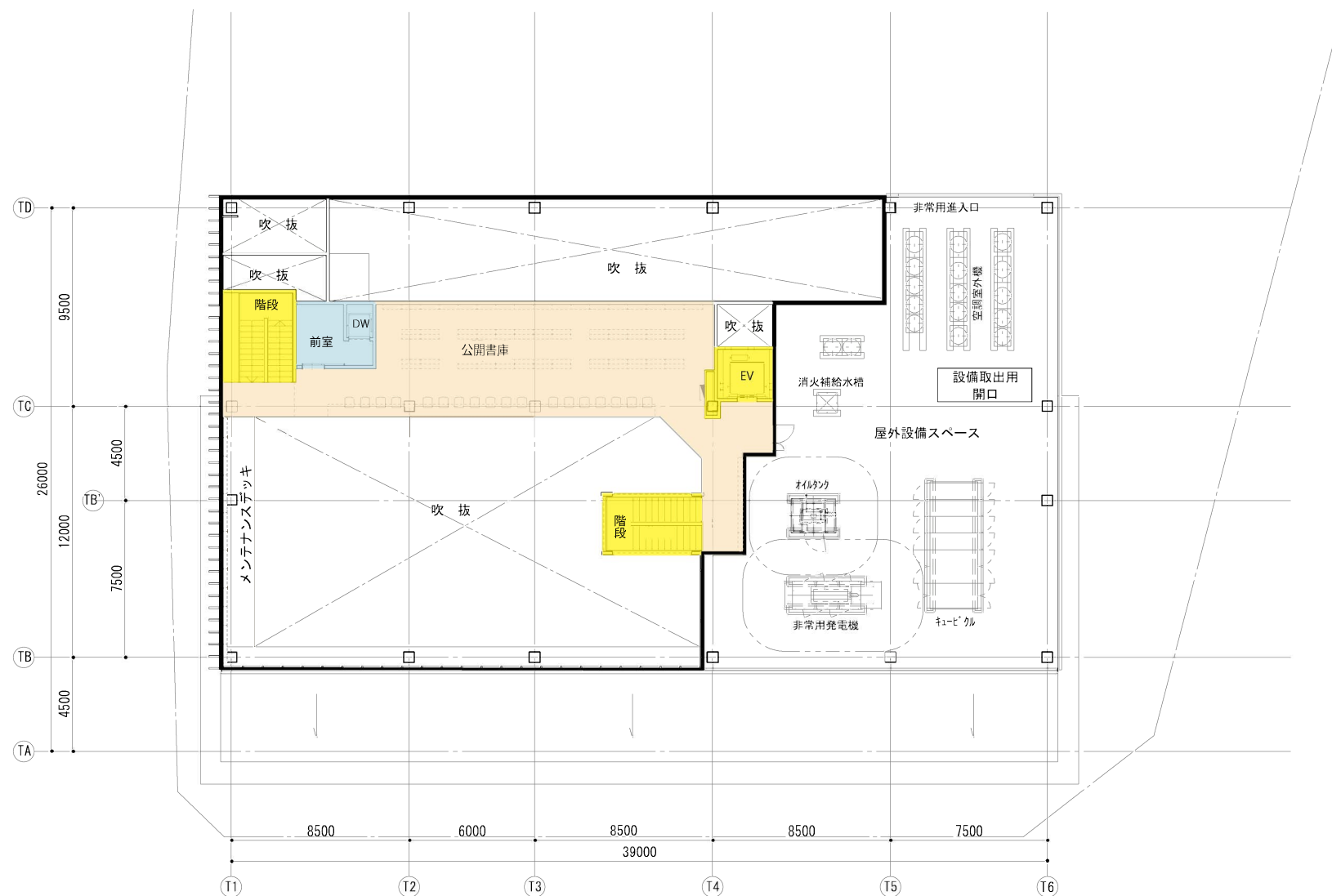




※ 各エリア・コーナーや配架の詳細は実施設計において検討します。



※ 各エリア・コーナーや配架の詳細は実施設計において検討します。



※ 各エリア・コーナーや配架の詳細は実施設計において検討します。



